

# 藤井浩人TIMES

— 未来への挑戦 — Vol.4



## 藤井浩人の主な活動

天皇陛下がご退位され、皇太子さまがご即位されることに伴い、いよいよ私たちが慣れ親しんだ「平成」から「令和」へと元号が改められます。前回の発送後には多くの支援者の皆様からご支援をいただき、今回も平成最後となる「藤井TIMES」第4号をお送りさせていただくことができました。心から感謝申し上げます。

前回に引き続き私事ではありますが、昨年12月に父親となることができました。妻の実家に近い、岐阜市の病院にて2902gの男の子が生まれました。まだ数ヶ月ではありますが、家族や子育てと向き合うことで、今までは見聞きすることで想像を膨らませていたことから、実体験としての楽しさや苦労などたくさんを感じることができています。首も座りはじめ、市内のイベント等にも出かけることができるようになってきました。また皆様にご挨拶させていただけることを楽しみにしています。



また先日、統一地方選挙が行われ美濃加茂市においては、市議会議員の時より大変お世話になっております小川恒雄県議が5期目の当選を無投票で果たされ、議長就任の見通しが伝えられました。現在は、市、県、国が連携して取り組まなければならない課題が多くあります。皆様には引き続き、私たちの生活と密接につながっている市政や県政そして国政に関心を持っていただき、ご意見、お力添えをいただきたいと存じます。

前回、発送手続きに誤りがあり、お届けできていない場合が御座います。その際はお手数ですが、事務局までご連絡いただけると幸いです。また、新たにお届けご希望の方がいらっしゃる場合も事務局までご連絡いただくと有難いです。(会費は必須ではありません。活動にご支援いただける方からの個人献金をお願いしております。)

## 4年半の活動報告

在任中の活動報告や、日々の活動を通じて感じたことを分野ごとに毎号行っています。今回は「市役所の在り方」についてです。「市役所」というと建物をイメージされる人と、行政としての機能と市長をトップとした組織をイメージされる人がいらっしゃると思います。現在、伊藤市長のもと進められ、議会でも議論されている「新庁舎整備基本計画」が策定中ですが、その「市役所」について、私が市長時代に取り組んできたことと、その想いをご紹介します。

これからの時代、無駄な箱物にお金や時間を費やす余裕はなく、何よりも「人」がどう生きるかが大切です。そのために、まずは人材や技術、情報、意識といった無形の「ソフト」に力を入れていくことが第一優先であり、「ソフト」の力を発揮するために、建物や施設といった「形」ある「ハード」を整備するということが重要だと考えて取り組んできました。

その中でも特に重要視した、『現場主義・現場で勝負』、『市民目線と先端技術の導入』の一端を記します。

『現場主義』は、私自身の活動方針でもありますが、行政としても市民の皆さんが抱える課題や不安、悩みなどが聞こえてくるのを待つのではなく、職員が最前線に出て、問題を認識し、市民の皆さんと一緒に考えて、問題の解決やまちづくりをしていくことが必要ではないかと考えていました。例えば、縮小されつつあった連絡所での業務や権限を見直し、各地域を育めるような「まちづくり」を託しました。また「ソフト」として、いくつもの部署には積極的に役所を飛び出し、現場に出て行くことをお願いし、「ハード」として「まちづくり課」を山之上に設置しました。

現在はスマートフォンやパソコンで瞬時に情報をやり取りし、人が一堂に会さなくても会議ができたり、人と人とのコミュニケーションが可能な時代になっています。市として大切なことは、市民の皆さんと一緒に現場に立ち、課題を解決していくことです。大きな建物にプロである職員を仕舞い込んでおくのではなく、職員も市民もフレキシブル(柔軟)に動けるような体制が必要だと考えています。

「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」これは武田信玄が大切にしていた言葉です。ハードの前に、役所のあるべき姿、市民の皆さんが行政に求めることは何か、どうすれば皆さんと職員が力を合わせて汗を流すことができるのかを、皆さんと一緒に考え、共通の認識を持つことが大切なのではないでしょうか。

もう一つ、『市民目線と先端技術の導入』は、市役所の仕事として政策を作って実現することに脚光が当たりがちですが、最も大切な業務は市民の皆さんの情報を正確に管理し、手続きを正しく行うことです。しかし、これらは厳格な業務ゆえに市民目線での利便性が追求しづらいということも目の当たりにしました。